

リメンバー名古屋10周年記念冊子

「自死遺族のあの日・自死遺族のその後(仮題)」原稿募集

2003年12月に第一回の分かち合いを開いたリメンバー名古屋は、この12月で10年の節目を迎えます。

そこで、これまで会に関わっていただいた皆様の思いを集めた、冊子制作を行うこととなりました。

応募要件

【一般の部】…家族・友人・恋人など、大切な方を自死で亡くされた、概ね70歳以上の方

【リメンバーメンバーの部】…リメンバー名古屋の遺族会に参加したことのある方(年齢制限なし)

規定

「あの日のこと」「あの日の思い」「その後のこと」「その後の思い」「あの人への思い」をテーマに文章をお寄せください。

詩、短歌など、短いものも可。

※掲載にあたり、内容、表現についてご相談させていただく場合があります。

■掲載について

テーマに適合した原稿の中から、冊子の構成上のバランスを考慮し、当会作文の会スタッフが選定申し上げます。

寄稿くださった全ての原稿を掲載することができませんことを、あらかじめご了承ください。

■字数

字数制限は特に設けませんが、長い場合調整をお願いする場合があります。

■寄稿方法

できれば、ワープロファイルでお送りください。もちろん、手書きでも大丈夫です。

下記メールアドレスに送付、または、手書きの場合は、遺族会に持参していただくか、下記住所まで郵送してください。

今後、ご連絡させていただく必要があるため、ご住所・お名前・電話番号・メールアドレスを必ずお知らせください(連絡が取れない場合掲載できない場合があります。情報の秘密は厳守いたします)。

また、今回は、冊子全体を通じて、きょうまでを過ごしてきた私たちの「時の流れ」を感じてもらえるような編集を目指しています。

いづごろ、どなた様を亡くされたのか、についても、差し支えない範囲でお書きください。

メール：remember_nagoya@yahoo.co.jp

郵送：お送りいただく住所は今後発表します。

■掲載時のお名前等

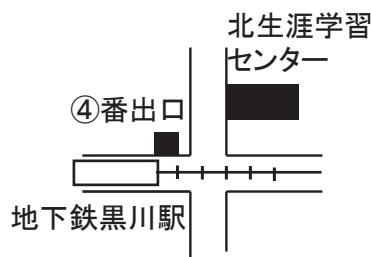
匿名、ペンネームで大丈夫です。どのように掲載するかご指定ください。

■冊子の配布など

次回の遺族会

第58回

6月2日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は・・・

第59回 8月※日は未定です。
6月4日以降に決定します。

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。

パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>

携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>
電話案内(録音でのご案内)

090-8544-9408



※2011年3月発行
「自死遺族の手紙」

遺族会、公共の場所、民間会社など、幅広く不特定多数に、無償、あるいは、原価程度を基本とした有償にて配布する場合があります。

■二次利用など

各文章の著作権は作者の方に帰属し、許可なく二次利用はいたしません。

新聞、ホームページなど、他媒体での引用依頼等があった場合は、その都度、作者の方に確認させていただきます。

■発行時期

2014年3月を予定 ただし、寄稿数によっては延期する場合があります。

■発行部数

1000冊程を予定していますが、増減する場合があります。

■その他

応募原稿は返却いたしませんのでご了承ください。原稿料はございません。応募くださった方には、完成した冊子をお送り致します。

2012年度会計報告

たいへん遅くなりましたが、2012年度(2012年1月1日～2012年12月31日)の会計報告がようやくまとまりましたので、ご報告させていただきます。

遺族会の時いただいております会費(現在500円)は、下記のように使わせていただいております。また、共に支え合うという自助グループであることから、スタッフとしての参加者も参加費を支払って会の運営に充てています。

これまで同様、会計規定に則り大切にに使わせてい

たきます。

また2012年1月、2012年11月に「リメンバー名古屋in岡崎」を開催しましたが、その費用は、遺族会会計とは別に、「愛知県地域自殺対策緊急強化基金」で賄っております。

収支計算書(遺族会会計)

【収入】 94,873

●遺族会会費 60,500

2月 8,500

4月 8,500

6月 13,500

8月 9,000

10月 10,000

12月 11,000

●リメンバー新聞会費 15,480

●その他 18,660

寄付 7,511

冊子申込等 760

切手収支残高調整 10,389

●受取利息 233

貸借対照表(遺族会会計)

【資産】 732,759

●現預金切手計 732,759

【負債】 0

●未払金等 0

【正味財産】 732,759

●昨年度からの繰越 738,642

●今期収支差額 △5,883

●イベント会計へ移管 0

【支出】 100,756

●会場費 45,600

●事務費 13,516

コピー代、封筒、プリンターインク他

●交通費 0

打合せ、会場予約、下見等

●通信費 37,403

新聞・冊子等送付

22,400

遺族会携帯 12,763

サーバーレンタル他

2,240

●雑費 4,237

遺族会お茶コップ他

0

【今期収支差額】 △5,883

今期収支差額 △5,883

をそのまま、次期に繰り越し。

ご寄付いただきましたみなさま、どうもありがとうございました。

※今後のイベント、冊子制作等大きな出金のための保管会計

収支計算書(イベント会計)

【収入】 0

●遺族会会計より振替

0

【支出】 0

【今期収支差額】 0

貸借対照表(イベント会計)

【資産】 500,000

●現預金切手計 500,000

【正味財産】 500,000

●昨年度からの繰越 500,000

●今期収支差額 0

そのまま、次期に繰り越し。

リメンバー名古屋 会計規定 2007

「会の活動」にかかると収入・費用を、以下のよう

に定め、会の会計により処理するものとする。

- ・会の活動とは、遺族会、スタッフ会議、講演会シンポジウムなどのイベント、他団体自治体等との必要な会議、会に対する取材対応、遠足の会、作文の会など。
- ・会の名前を使用するなどしていても、個人的な講演、寄稿、取材などについて、その報酬、費用について、会の会計は関与しない。
- ・講演会、シンポジウムなど大規模なイベントなどについては、独立採算を基本とし、最終損益の処理は都度検討する。
- ・以下に規定のないものは、都度協議する。

収入

●会費
遺族会における会費・郵送会員年会費
●寄付、助成金等
寄付、助成金収入

●イベント収入
イベント時の収入

費用

●会場費
「会の活動」のための必要な会場使用にかかる費用。遺族会、会議における会場費用等。

●通信費
「会の活動」のための必要な通信費。遺族、関係者との連絡、物品の移動にかかる通信費など。

●交通費
「会の活動」のうち、会を代表して対外的に行うものにかかる交通費。会場取得、他団体自治体等との必要な会議、会に対する取材対応など。遺族会、スタッフ会議、遠足の会、作文の会などへの

出席のための費用は含まない。但し、会の運営に必要な荷物の運搬のために車で移動した場合を除く。

公共交通機関の場合・・・実費
車移動の場合・・・駐車料金、ガソリン代等、実費相当分

●事務費
「会の活動」のための必要な事務費。新聞、パンフレット、アンケート、会議資料などの用紙、印刷費用。

●雑費
遺族会で使用のお茶、コップなど。スタッフ内のみでの飲食費などは不可。

●イベント費用
イベント時の費用。

●交際費等
基本的に不可。

●活動報酬的なもの
基本的に不可

リメンバー名古屋in岡崎、 遺族向けセミナーを予定

本年度の「愛知県地域自殺対策緊急強化基金」の事業として、冊子制作、リメンバー名古屋in岡崎、遺族向けセミナーを予定しています。

冊子は、新聞1面でご紹介した内容となります。リメンバー名古屋in岡崎の日程は未定です。遺族向けセミナーについては、以下の内容で予定しています。

- 日時：2013年11月24日（日）時刻は未定
 場所：愛知県産業労働センター
 講師：臨床スピリチュアルケア協会副代表
- ・ 桃山学院大学社会福祉学科教授
 - ・ 上智大学グリーンケア研究所客員研究員
 - ・ 伊藤 高章 氏

4月21日
愛知牧場

春の遠足・終了

4月21日に、恒例の第17回春の遠足に行ってきました。12名の方にご参加いただきました。

なぜかいつも雨の愛知牧場なのですが、今回はよいお天気です…はありましたが、牧場のおいしいソフトクリームを食べるには少々寒い日となりました。



次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、2ヶ月に1回、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。

- 日時：2013年7月13日（土）13:30-16:00
 場所：名古屋市中村生涯学習センター
 地下鉄東山線「本陣」駅4番出口より徒歩5分

電話相談のご案内

自死遺族に限らない、幅広い窓口です。

○あいちこころほっとライン365

愛知県精神保健福祉センター

毎日 9:00~16:30 052-951-2881

○名古屋市こころの健康電話相談

名古屋市精神保健福祉センターこころば

月-金 12:45~16:45 052-483-2215

面接相談のご案内(無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377 毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこころば

要予約 052-483-2095 毎月第3火曜日 午前10時-12時

法的なことでお困りの場合は

自死遺族支援弁護団

全国自死遺族法律相談ホットライン

※全国の弁護士が直接対応

電話：050-3786-1980

毎週水曜日 12:00-15:00 (祝日を除く)

Eメール：info@jishiizoku-law.org

ホームページ：http://www.jishiizoku-law.org

FAX：06-6949-8217

日本司法支援センター「法テラス」

「法テラス」は国が設立した公的な法人です。

法テラス愛知

050-3383-5460

法テラス三河

050-3383-5465

※平日9:00-16:00

対象：家族以外の大切な人(恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など)を自死(自殺)で亡くされた方

参加費：500円

連絡先：the.dearest1@gmail.com

http://dearest.heya.jp

※事前にご連絡頂けると助かりますが、直接会場にお越し頂いても結構です。

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。

遺族会当日に、お茶の買い出し、参加者の案内など、継続的でなくても結構です。

詳しくはお問い合わせください。

新聞郵送をご希望の方へ

1月~6月末までのお申し込み(前期)…1000円 もしくは 80円切手13枚

7月~12月末までのお申し込み(後期)…500円 もしくは 80円切手7枚

お申込みは、郵便番号・住所・氏名を記入の上ご送金いただくか、切手をご郵送ください。遺族会の当日、受付でお支払いいただいても結構です。

リメンバー文庫



リメンバー文庫では、遺族の方向けの書籍を集め、遺族会の時などに貸し出しを行っています。今回は、文庫の中から「くまとやまねこ」(湯本 香樹実/著)を紹介させていただきます。

今回、皆様に紹介したいリメンバー文庫は『くまとやまねこ』という絵本です。

物語は、くまと一緒に暮らしていたことが死んでしまうところから始まります。ことりは、昨日の朝までくまと一緒に食事をしていたのですが、次の日の朝、さよならも言わずに死んでしまっていました。くまは、ことりのために、綺麗な箱に美しい花を入れ、ことりの亡骸をしまっ、どこへ行くにも持ち歩きました。しかし、その行動は、森の仲間たちには理解されません。くまは、ひとり、暗く閉め切った部屋に閉じこもってしまいます。誰とも喋らず、ひとりくまは泣き暮らしていました。何日も何日も経った、天気のとてよよいある朝、くまは思い切って部屋から出て、森を歩き、ことりとの思い出の場所へ向かいました。そうしたら、そこにバイオリンを持った見知らぬやまねこが寝ていました。目を覚ましたやまねこは、くまに箱について訊ねます。森の仲間たちに散々に言われたくまは、躊躇しますが、正直に愛することりをやまねこに見せます。そうすると、やまねこは森の仲間たちとは違ったことを言いました。「きみは、ずいぶんさみしいおもいをしているんだね。」「きみとことりのためにえんそうさせてくれよ。」と。やまねこの演奏するバイオリンの音色に、くまは思いを馳せます。ことりとの一瞬一瞬が鮮やかに思い出されました。そして、演奏の終わったやまねこは旅に出ました。くまと一緒に。くまは、やまねこが大切に持っていたタンバリンを持っています。そのタンバリンは古びて、手

あかがついていました。きつと、やまねこにも大切だったけれど、別れなければならなかった誰かがいたのだろうと、くまは思いました。そして、森に丁重に葬られたことりは、やがて木の一部となり、森の移り変わりを感じることでしょう。

モノトーンなつくりの絵本の挿絵にも涙を誘われますが、くまの閉じ籠ってってしまう心理にも共感できました。そして、くまとやまねこは出逢う運命だったということにもうなずけました。ことりが死んでしまっていなければ、くまはやまねこの持っていた古いタンバリンに何も思わなかったでしょう。

それと同じように、命が消えてしまっても、心の中に生きている大切なものは消えないと、この絵本から、改めて感じ取りました。

生きていても忘れ去られてしまう人が沢山いるのに、死んでしまっても胸の中で生き続けている死者の方がよほど幸せなのではないかと私は思いました。愛する人が死者になり、時は移ろい、変わっていきますが、あのときの思いも感情もそのまま生き続けているはずです。

自分が死者になって、自分のことをこのくまのように思ってくれる人はいるのだろうか、そして、自分はこのくまのように生きられるのかと、問いは続きます。(ソニア)

★★★★本の紹介★★★★

「くまとやまねこ」
湯本 香樹実 (著)
酒井 駒子 (イラスト)
河出書房新社 1,365円

いめんぼー

月曜日の朝は、ゴミ出しの日です。住んでいる5階の窓からゴミ置き場を覗き込み、まだ収集車が来ていないことを確認すると、慌てて家の中のゴミを集めていきます。

慌ただしさの中、死んだ者の服を少し袋に詰めて捨てました。きっかけは、「ゴミ袋に余裕があったから」一もちろん、ただの思い付きという訳ではなく、少し先に予定している引っ越しに向けて、片づけていかないと、とずっと思い続けていた中でのことです。

13年近くほとんど開けたことのない引き出しを開け、目を閉じ、心にふたをして、息さえも止めるようにして、中の服を袋に移していきます。もうすぐ、ゴミ収集車が来てしまうという慌てた状況の中でこそ一間に合わなければいいのに、とも思いながら一できることなのでしょう。さまざまなものが詰まった重さを手に感じながら、ゴミ置き場まで持っていき、そっと置きました。

着ていた服、使っていた物というのは、遺された者にとっては、その者をつながる、よすがであり、亡くなった者の一部であるように感じます。色あせていくもの、擦り減っていくもの、壊れていくもの……時の流れの中で否応なく失われていったものがある一方、引き出しや、箱の中に封印をしてやり過ごしてきたものがあります。封印をしたものは、時間が経てば経つほど、封を解いた時に、より大きく心が揺さぶられるように感じます。それは、封印すると同時に心の中で閉じた蓋の上に、厚く積もった時間の層が、封印が解かれた瞬間に、はじけ飛んでしまうからなのかもしれません。

部屋に戻ると、待っていてくれたかのように、ゴミ収集車がやってきました。そのうなるような音が去っていくのを、部屋の中でじっと待つのでした。(KN)